

年頭のご挨拶

あけまして、おめでとうございます。今年も、皆さんと新年をお祝いすることができ、誠に喜ばしい限りです。まずは、日頃より本学の運営・活動にご理解いただいている社会の皆様からのご支援、横浜国立大学の教職員及び関係者の方々に対しまして、昨年一年間ご尽力いただきましたことを感謝申し上げます。引き続き、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

私が新春のご挨拶を申し上げるのも6回目ですが、毎回、正月が本日のようにすがすがしい年の初めであったことは、幸せなことでした。毎年、このような穏やかな正月を迎えられることは、この上ないことと思います。ともすると忘れてしまいかねない日常や安定した仕事・暮らしの大切さを思い返すのが新年なのかもしれません。

昨年は、色々なことがありました。大学改革推進経費の獲得や都市型の研究大学として積極的な活動を始めることができた一方で、改組関係で残念な結果となった事案もありました。

新春に当たり、お願ひを含めて、何点かお話をさせていただきます。平成27年は、第2期の中期目標・中期計画の最後の年であり、また第3期に向けた目標・計画を作成する重要な年でもあります。日常的な業務に加えて、今後10年を見据えた目標・計画の策定検討をお願いすることになります。また、本年3月末をもって私は退任し、4月から新しい体制で横浜国立大学という船が舵をとられることになります。同時に、長年本学のためにご尽力いただいた事務部門の要職のかなりの方々が退職、交代をします。

大学の管理運営・事務職として大学の中核を担ってきた方の交代は、多くの方々にとって大変な時と思われるかもしれません、国立大学法人として12年が経過する時期に、次の世代の方々のアイディアとエネルギーで新境地を切り開く大きなチャンスでもあります。これから横浜国立大学の中核を担って行く方々の活躍を期待しています。今後、入試改革、年俸制の大規模導入や教職員の評価が国立大学にとって大きな焦点となりそうですが、こうしたことの趣旨を十分理解してください。

最後に、今後も社会の皆様からのご支援を賜ると共に教職員、そして学生の皆さんと、横浜国立大学の一員であることを胸に、社会をリードする大学として本学が一層の存在感のある大学となり、社会へ貢献できることへのご努力をお願いして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

今年一年よろしくお願ひ申し上げます。

平成27年1月5日

横浜国立大学長 鈴木邦雄